

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立国本中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問調査)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問調査)

4 本校の参加状況

① 国語 117人

② 数学 117人

③ 理科 117人

5 留意事項

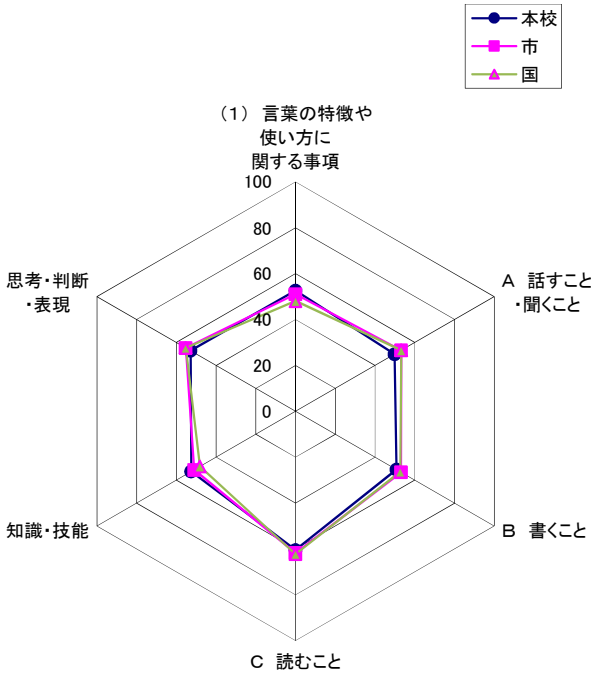
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立国本中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	52.6	51.1	48.1
	(2) 情報の扱い方にに関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	49.8	53.2	53.2
	B 書くこと	50.8	53.1	52.8
	C 読むこと	60.4	61.8	62.3
観点	知識・技能	52.6	51.1	48.1
	思考・判断・表現	52.8	55.3	55.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

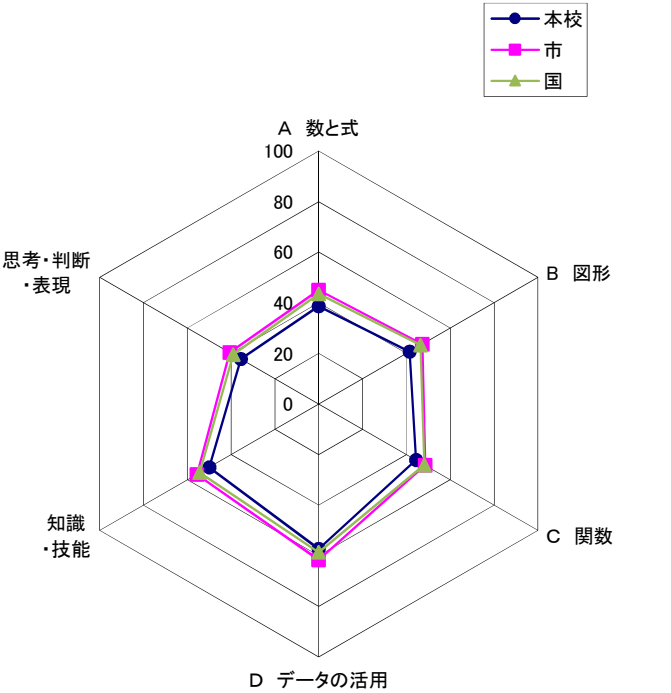
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方にに関する事項	○全領域・観点の中で市および国の平均正答率に比べて唯一上回っていた。具体的には「かいしん」を「会心」、「しきりと」の意味を「何度も」と正しく解答した生徒が半数以上であった。	・毎授業行っている漢字の小テストの実践と、補助教材を使用した学習への励行が効果があったと思われるので継続する。
(2) 情報の扱い方にに関する事項		
(3) 我が国の言語文化に関する事項		
A 話すこと・聞くこと	○記述式での解答はポイントが高かった。恐らく実際にイラストへの加筆をして具体的に考えた上での「助言」を解答した生徒が多かったと思われる。 ●市および国の平均正答率よりも3.4ポイント低かった。細かく分析してみると、文章内の登場人物の視点の解答ではなく、生徒自身の疑問や印象にひっぱられた解答になっている様子がうかがえた。	・長文での設問、複数の資料や条件等に不慣れな結果が伺える。一問一答式の授業展開や定期テストの設問が要因とも思われる。今後は一つの問いの中に複数の資料や条件を含めた形式のテスト等を定期的実施する。
B 書くこと	○長文の中から誤字を見つけ、正しく修正する問題では「専門」という誤字を「門」に書き直した生徒が県・全国よりも多かった。「言葉の特徴や使い方にに関する事項」の正答率が県・全国より高いことに比例していると考えられる。 ●記述式の解答についての正答率が低い。解答はしても条件に合わない解答をしたり、2つの条件のうち1つだけに対応したものが見られた。	・言語を正しく理解し、使えるような学習を今後も継続する。 ・条件が複数あるもの、図やグラフ等視覚的情報が多いものについての解答に慣れおらず、情報整理・活用して相手に伝えるように書く経験に乏しいことが判明した。授業の中で取り上げて経験値を上げていくようにする。
C 読むこと	○「選択式」「短答式」「記述式」の解答形式のうち短答式での解答の正答率が90%以上であり全正答率の中で最も高かった。理由としては解答すべき語が文章中にわかりやすく表現されているからだと考えられる。 ●「選択式」「記述式」の正答率が共に県や全国に比べて低いのは、解答に必要な条件が複数あり、それら全てに対応できなかったからだと推察される。	・他の領域と同様に「記述式」での解答に苦戦している様子が見られる。まずは、無解答率を減らすためにも、条件付き解答問題に慣れ、正しい解答のパターンを幾つか身に付けられるよう、授業の中で扱うようにする。

宇都宮市立国本中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と式	38.6	45.0	43.5
	B 図形	41.5	47.2	46.5
	C 関数	44.4	48.5	48.2
	D データの活用	57.3	61.6	58.6
観点	知識・技能	50.0	55.6	54.4
	思考・判断・表現	35.6	40.7	39.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と式	○文字式を用いて説明する記述問題では、県の正答率を2.6ポイント上回っている。無回答や、想定外の回答も少なく、問いに対して適切なアプローチができていた生徒が多いと考えられる。 ●素数を選択する問題では、県の正答率を18ポイント下回っている。素数の意味についての理解度が思わしくなく、1を素数だと勘違いしてしまった誤答が多い。	・簡単な計算や性質など、既習事項の確認をする時間を多く取り入れていく。 ・復習プリントなどを配付し、既習事項の定着に役立てていく。 ・新たに学習する内容に関しては、繰り返し問題練習を行う中で、基本的な問題の解き方を身に付けられるよう心掛けることで、難易度の高い問題を解決する糸口になるようにする。
B 図形	○平行四辺形の性質を選択する問題では、県の正答率を0.4ポイント上回っている。複数ある図形の性質が、きちんと整理されている生徒が多いと考えられる。 ●角度を求める問題や、図形の証明を完成させる問題では、県の正答率を3～10ポイントほど下回っている。無回答は少ないものの、図形の性質を活用することが苦手な生徒が多い。	・角度を求める問題では、図形の性質に触れながら解法を解説することで、性質の活用法を身に付けさせる。 ・証明の問題では、図に印をつけながら解くことで、様々な性質が新しい性質の証明につながることを理解させる。
C 関数	○関数のグラフの走行距離と運賃の関係から、必要な情報を読み取る問題では、県の正答率を2.9ポイント上回っている。問題の意味を理解している生徒が多いと考えられる。 ●関数のグラフの走行距離と運賃の関係のグラフから式を読み取り、運賃を求める問題では県の正答率を7.2ポイント下回っている。関数の計算を苦手とする生徒が多い。	・文章の内容や、グラフの意味を理解している生徒は多いため、式の求め方や、式を利用して交点の座標を求める問題に多く取り組ませる。
D データの活用	○じゃんけんの確率を求める問題では、県の正答率を4ポイント上回っている。 ●度数分布表から相対度数を求める問題では、県の正答率を13.2ポイント下回っている。階級の度数を読み取ってしまう誤答が目立った。	・確率の求め方は理解している生徒が多いため、多くの問題に取り組ませ対応力をつけさせる。 ・相対度数をはじめとしたデータの活用の単元の理解が不十分な生徒が多いため、復習の時間を設ける。

宇都宮市立国本中学校第3学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	57.4	54.5	56.1
	「粒子」を柱とする領域	64.8	62.2	61.7
	「生命」を柱とする領域	46.6	46.5	44.8
	「地球」を柱とする領域	39.4	36.7	37.3
観点	知識・技能	69.0	67.0	66.8
	思考・判断・表現	40.9	38.3	38.8
	主体的に学習に取り組む態度			

※中学理科の調査は、CBTで実施されている。

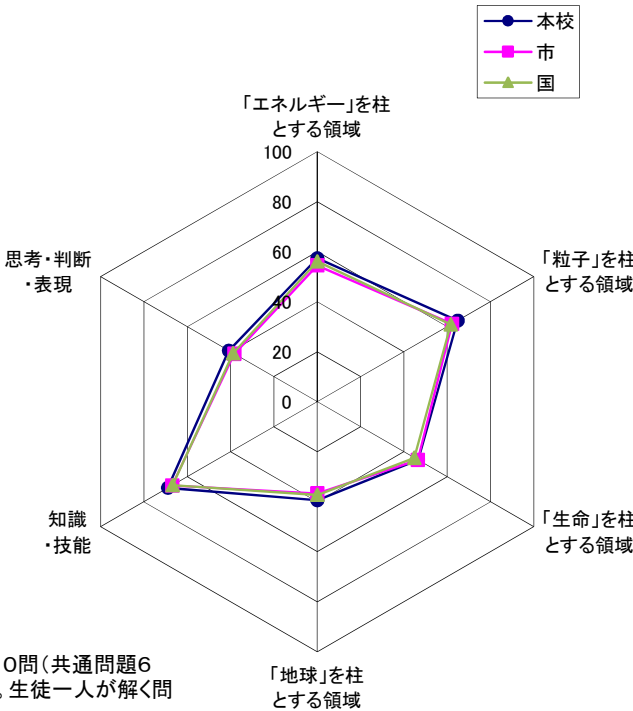
※CBTの調査では、生徒全員に同じ問題が出題されるのではなく、公開問題10問(共通問題6問、実施日より指定された問題4問)と、非公開問題が16問出題されている。生徒一人が解く問題数は26問である。

※公開問題22問(共通問題6問、実施日より異なる問題16問)の調査結果を集計した値である

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	本校の正答率は、市より2.9ポイント、国より1.3ポイント高くなっている。 ○直列回路と並列回路を対比させ、回路全体の抵抗の大きさや発熱量の大小について考えさせる問題や音の高さと振動数に関する問題では、県や市より正答率は高かった。 ●オームの法則から、電圧と電流の関係について考える問題では、県や市より正答率が低かった。	・今後も、課題をしっかりと把握させて観察・実験に取り組ませたい。さらに、その課題解決に向けて、深く考えさせるような発問や教材の工夫を図っていききたい。 ・課題に関連するような身近な生活の中で起こる現象についても取り上げたい。そうすることで、興味・関心をより一層高めさせることができるだけでなく、本質的な理解を伴った知識を定着させることができると考える。
「粒子」を柱とする領域	本校の正答率は、市より2.6ポイント、国より3.1ポイント高くなっている。 ○「精製水」と「水道水」の違いやそれぞれの製造方法について考える問題に関しては、市や県より正答率がかなり高かった。 ●化学変化を原子や分子のモデルを使って表す問題では、市や県より正答率は高いものの、4割程度の正答率に留まってしまった。	・これまで、観察・実験の際に、水道水と蒸留水をしっかりと区別しながら扱ってきた成果が表れたと考えられる。今後も生徒が観察・実験で使用する薬品や器具の特質などについての知識がしっかりと習得できるように、繰り返し丁寧に指導していききたい。 ・原子や分子、化学変化についての理解を深めるために、生徒一人一人が原子モデルを使って視覚的に考えさせる場面を設定していききたい。
「生命」を柱とする領域	本校の正答率は、市より0.1ポイント、国より1.8ポイント高くなっている。 ○生物の呼吸について問題やスケッチに関する問題では、市や県より正答率が高かった。 ●単子葉類の茎の内部と根のつくりに関する問題では、正答率が県や市より若干低かった。また、小腸の柔毛や肺の肺胞、根毛のつくりについての問題では、市や県より正答率は高いものの、4割程度の正答率に留まってしまった。	・観察におけるスケッチや呼吸について調べる実験においては、基本的な知識の習得を目指して、個々の課題について根拠を考えながら理解できるように指導してきた成果が表れたものと考えられる。 ・今後も生物に関する観察では、生徒が意欲的に取り組むことができるように、興味・関心をもてるような導入を設定したり、理解しやすい教材を扱ったりするなどの工夫を図っていききたい。
「地球」を柱とする領域	本校の正答率は、市より2.7ポイント、国より2.1ポイント高くなっている。 ○大地の変動による地層の変化や気圧についての問題では、市や県より正答率が高かった。 ●地層を構成する粒の大きさと水が染み出る場所を考えさせる問題では、正答率が県や市より低かった。また、地層の広がり考える問題では、市や県と正答率は同程度であるものの、2割程度の正答率に留まってしまった。	・地層について考える問題では、大地の下の状態をイメージして理解しなくてはならないため、視覚的に捉えることができるような教材や画像を工夫して提示していききたい。 ・地層に関する問題を解くことに苦手意識をもっている生徒が多い。そこで、思考の過程を、いくつかの段階に分けて考えさせるような発問を設定していくことが有効であると考え、発問の工夫を図っていききたい。



宇都宮市立国本中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○質問番号(9)「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」では、本校の肯定的回答の割合は98.3ポイント(県97.0、全国95.9)と、県、全国の平均を上回った。同質問において「当てはまらない」の回答は0%であった。

○質問番号(10)「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」では、肯定的回答は県、全国と同程度であるが、「当てはまる」が42.7ポイント(県33.9、全国31.9)と、県、全国の平均を大きく上回った。

○質問番号(6)「先生は、あなたの良いところを認めてくれますか」では、「どちらかといえば、当てはまる」を含めた肯定的回答の割合は、92.3ポイントで、県、全国と同程度であるが、「当てはまる」が57.3ポイント(県54.1、全国46.6)と、県、全国の平均を上回っている。

○質問番号(7)「将来の夢や目標を持っていますか」では、肯定的回答の割合は77.0ポイントで、県(71.0)、全国(67.5)を大きく上回った。

●質問番号(5)「自分には、よいところがあると思いますか」では、肯定的回答の割合は83.7ポイント(県88.0、全国86.2)と、県、全国の平均をやや下回った。生徒一人一人のよさを認め、自己肯定感を高めて未来につなげるような日々の声掛けを、継続して実践していきたい。

●質問番号(16)「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」では、肯定的回答の割合は、75.3ポイントで、県(78.9)、全国(77.5)と同程度であるが、「当てはまる」が57.3ポイント(県54.1、全国46.6)と、県、全国の平均を上回っている。

●1日当たりの学習時間2時間以上の生徒が23.9ポイントと、県、全国の平均を下回った。この結果を踏まえ、スマートフォンの使用時間が、学習時間を上回らないように生徒へ指導するとともに、保護者への啓発も行っていく。

宇都宮市立国本中学校（第3学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・授業改善を通じた授業力の向上	生徒にとって「分かる授業」を展開するために、宇都宮モデルに基づき、めあての明示やペアワーク、グループワークなどの学習形態の工夫、授業の終末での学習内容の振り返りを全教科で実践している。	質問番号(46)「国語の授業の内容はよく分かりますか」の質問の肯定的回答の割合は、国語77.8で県や全国の平均と同程度であった。質問番号(54)「数学の授業の内容はよく分かりますか」では、63.3ポイントと、県や全国の平均を5ポイント以上下回った。質問番号(62)「理科の授業の内容はよく分かりますか」では、69.2ポイントで、県と全国の平均をやや下回った。また、質問番号(28)「1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」では、肯定的回答の割合が21.4ポイントと、県(45.0)、全国(53.2)を大きく下回り、教師のICTを活用した授業づくりに課題の残る結果となった。
・生徒の学びの自己調整能力の育成	定期テスト前の2週間、「家庭学習がんばりの記録」を利用し、家庭学習の時間を記入することで、生徒自身の学習への取組状況を可視化し、個に応じて指導助言を行っている。 各教科の学習を振り返り、理解できた点や、よく分からなかった点を整理し、次の学習につなげられるよう、各教科振り返りシート等を活用する。	質問番号(49)「国語の授業で、先生は、あなたの学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてくれますか」の肯定的回答が79.5ポイントと、県・全国の平均を5ポイント以上上回った。質問番号(36)「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」では、肯定的回答は70.1ポイントで、県(76.3)と全国(73.4)をやや下回った。質問番号(37)「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思っていますか」では、肯定的回答は76.1ポイントで、県(78.2)、全国(74.8)と同程度であった。
・家庭学習における学習内容の復習の習慣化に向けた指導の工夫	全学年で家庭学習の習慣化に向けた取組を行っている。また、復習するポイントを生徒が整理しやすいよう、各授業で、その日の学習内容の振り返りを行っている。	質問番号(17)(19)から、一日1時間以上勉強する生徒の割合は、県、全国の平均と同程度であることが分かる。「2時間以上」と回答した割合は県、全国と比較して少なめである。「全くしない」と回答した割合は土日で6.0ポイント、平日で3.4ポイントと、県、全国の平均と比較して非常に少なくなっており、ここ2年継続的に減少している状況であることから、家庭学習への取組の習慣化については徐々に定着してきたと考えられる。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
質問番号(28)「1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」では、肯定的回答の割合が21.4ポイントと、県(45.0)、全国(53.2)を大きく下回り、教師のICTを活用した授業づくりに課題の残る結果となった。	・授業改善を通じた授業力の向上	他の質問項目への回答状況から、生徒がICTを活用して情報を整理したり、プレゼンテーションを作成したりすることは十分出来ていると考えられる。 そのため、ただICT機器を使用するのではなく、学習した内容について、分かった点や、よくわからなかった点を見直しまとめたり、自分の考えや意見を文章、表、スライドにまとめさせて表現させ、それらを他者と比較検討させたりするなど、ICT機器の有効な活用方法については教科を超えて共有しながら、各教科の授業の展開の工夫を図る。